

■有馬頼? (ぎょうにんべん+童) 和算の大家となった学者大名。山路主任の直弟子ながら師が確立した関流の秘密主義に反旗。

ありまよりゆき

絵島事件・1714= 筑後国久留米で、6代藩主有馬則維の四男に生まれる。

徳川吉宗將軍1716= 2歳:

長兄・次兄は誕生前に死去しており、

・・・・・・1719= 5歳: 三兄も死去したことから、継嗣となるが、

早くから「塵劫記」の問題を解くことに夢中になるような性格で、

火の見櫓制・1723= 9歳:

近松没・・・・1724=10歳: この年幕府に出仕した_和算家山路主任にまもなく師事するようになったらしく、

とても藩主に向かないと、弟則恵を継嗣にしたい父から廃嫡されそうになるも、家老の意見で免れ、

梅岩心学始・1729=15歳: 領内の一揆で引責致仕した_父の後を継いで、7代久留米藩主となる。

・・・・・・1730=16歳: 実権は父が握っていて、藩政に口を出せず、ますます和算に溺れるなか、この年、数学好きの磐城平藩主が浪人の天才和算家久留島義太を召し抱えたというのを、山路主任から聞き、自らもと山路に相談、

享保大飢饉・1732=18歳: かつて久留米藩主だったという松永良弼を教えられるも、松永まで平藩主が召し抱えてしまう。

病膏肓に入った頃、ようやく自ら政務を執り始めると、

・・・・・・1737=23歳: この年の飢饉に、領民に救済金や救済米を施す一方、一揆に対しては首謀者全員に加え藩の家老も処刑する

厳しさを見せた上、後に彼らを慰める五穀神社祭礼を行うなどの見識も発揮。

・・・・・・1738=24歳: 父も死去して、自由にできるようになるなか、磐城平では大い揆が発生して和算どころでなくなり、

ツボ船出沒始 1739=25歳: この年、建部賢弘が死去、

・・・・・・1741=27歳:

いよいよ松永良弼を召し抱えようとするも、関流を秘伝にしようとする山路に抵抗されるうち、

梅岩没・・・・1744=30歳: 松永良弼も死去してしまう。

徳川吉宗隠居1745=31歳: 山路が將軍吉宗の命で改暦作業に参加し離れて行くや、*関流和算の先人の業績を整理して、画期的な構成

でまとめた最初の和算書「初学天元門」の著述を皮切りに、

菅原伝授十・1746=32歳: 和算のあらゆる分野にまたがって師山路から学んだことをまとめ、「求徑要法」「開方算盤術」「諸術奇鑑」「粟

布門」「環錐解術」「招差五条伝」「法明解」「求積詳解」「天元角形門」「求積起率」「載積伝」「角形図解」、

義経千本桜・1747=33歳: 関孝和の遺稿を詳説した「開方蘊奥」、「点鼠探矩法」「大成算経統録解義」など、一気呵成に著述するが、

忠臣蔵・・・・1748=34歳: 山路が正式に補暦之御用手伝に任命されて師を失う一方、山路の手前、_いづれも出版されず。

・・・・・・1749=35歳:

関流和算家中根元圭の門下入江脩敬を儒臣として召抱える。

・・・・・・1750=36歳:

徳川吉宗没・1751=37歳:

_藩政を怠ってきたつげがまわり、

山脇東洋解剖1754=40歳: *領内で大規模な一揆が発生、家老の指揮で何とか収拾するが、以後、表向きは数学から離れて、

自然真営道・1755=41歳: この年、師山路の関わってきた宝暦暦が施行される。

大式政治批判1759=45歳:

大岡忠光没・1760=46歳:

この間、_静かに深く研究を続け、

忠臣蔵大当り1766=52歳: 師山路が奥義にしようとしていた_当時の関流和算の最高水準の名著「拾? (王+幾)算法(全5巻)」を著し、

久留米藩工事1768=54歳: _入江脩敬が高齢になったため、和算家藤田貞資を召抱えた後、

・・・・・・1769=55歳: 師は山路明記しながら、*偽名を使って「拾?算法(全5巻)」を刊行、直ぐに有馬頼?のものであることが知られ、唯一の出版物として、名声は不滅となる。

田沼意次老中1772=58歳:

師山路らとは以後も交流、

・・・・・・1777=63歳:

・・・・・・1781=67歳: _藤田貞資が出版した数学者必携の名著のタイトルを「精要算法」を決めるなど、

蘭学階梯・・・・1783=69歳: _最後まで和算家の藩主をつとめて、久留米で、_没した。